上智大学×ＪＡＬ奄美群島プロジェクト

奄美群島（鹿児島県）の環境と観光の共存を考える

シンポジウムを共同開催

本学と日本航空株式会社（ＪＡＬ）は、昨年1月21日に締結した連携協定のもと、奄美群島を舞台に環境保全と観光促進の両立による地域活性化をテーマに共同研究に取り組んでいる。その経過報告シンポジウム「奄美群島から考えるサステナビリティ」を3月27日、四谷キャンパスで共同開催した。

本シンポジウムでは、昨年度に実施した宇検村での調査研究発表と、パネルディスカッションが行われた。冒頭、あん・まくどなるどアイランド・サステナビリティ研究所長および柏頼之ＪＡＬ常務執行役員によるオープニング講演、宇検村の元山公知村長から村の紹介があった。

その後、ＪＡＬ産学連携部長の栢沼史好氏から、環境保全と観光促進の両立モデル（奄美モデル）の構築に向け、プロジェクトがどのように進められているのか説明があり、地球環境学研究科の3人の教授から宇検村での調査研究発表があった。

黄光偉教授は、河川の水質調査結果を発表し、観光客が増えると生活排水増による水質汚濁進行が予想され河川の自浄能力の向上が求められるが、それは河川景観とセットで議論すべきだと強調した。柘植隆宏教授は、観光に対する住民意識調査について発表。調査結果から、自然が壊されることやゴミ、排水の増加などにより環境の悪化が危惧されており、自然破壊や環境悪化を起こさない観光による地域活性化を目指すことが望ましいと結論付けた。織朱實教授は「世界自然遺産価値保全と宇検村新たな観光のあり方への4つの視点」と題した発表の中で、宇検村の地域課題解決と経済（観光）と環境保全をどう融合していくのか、調査、研究分析を進めていく上で、①ＳＤＧｓ的視点、②多様な関係者からの視点、③世界自然遺産価値活用からの視点、④事例比較的視点の4つの視点を持つ重要性について論じた。

後半のパネルディスカッションでは、宇検村を調査研究対象とする意義、村の魅力、観光商品としての魅力、世界遺産の活用、持続可能な観光など多岐にわたって議論を深めた。

質疑応答の後、最後に柏氏が近江商人の「三方よし」の経営哲学に触れ、売り手と買い手の満足に加えて社会貢献（自然保全）ができてこそ良い商売と言えると閉会の挨拶を述べ、シンポジウムを締めくくった。

パネルディスカッションで持続可能な観光について議論を深める

メインストリートなど改修工事終了

ユニバーサルデザインを採用

3月末、「四谷キャンパス外構整備計画」の一環として行われていた、メインストリート中央から図書館付近、8号館ピロティと体育館東側入口周り、および9号館アクティブ・コモンズ屋上庭園の改修工事が終了した。

メインストリートはインターロッキング舗装で、水はけがよく夏の照り返しを抑制。建物出入口の段差や急こう配を解消したユニバーサルデザインだ。

屋上庭園には、通常はベンチとして利用し災害時にはかまどとなる「かまどベンチ」や、シェードと自然のつた植物の天蓋があるパーゴラエリアなどが設置され、4月11日のプレオープン以降、学生の憩いの場となっている。5月中旬の祝別式を経てグランドオープンの予定だ。

屋上庭園のパーゴラエリア

第16回北部タイ大学生 日本語スピーチコンテスト

優勝者に1年間の留学機会を提供

3月4日、タイ北部のチェンマイ市で、在チェンマイ日本国総領事館とタイ王国元日本留学生協会北部支部が主催する「第16回北部タイ大学生 日本語スピーチコンテスト」が開催された。

本学は2011年から同コンテストを後援しており、優勝者に1年間の留学機会を提供している。コロナ禍のため3年ぶりの開催となった今回、優勝賞品目録のプレゼンターおよび審査員として、西澤茂高大連携担当副学長と言語教育研究センターの永澤済准教授が出席した。

一次審査を通過した20人が、最終審査で1人5分のスピーチを行った。家族や周囲の人々とのふれあいを通しての気づき、家族への感謝の気持ちといったものから、自信を持つことの大切さ、外見にとらわれず生きるといった思春期の若者の繊細な心の内を表現したものなど、個人的な体験をもとにしたスピーチが披露された。ユーモアを交えて語る出場者も多く、緊張感がありながらも和やかなコンテストとなった。

審査が行われている間、上智大学の紹介ビデオの上映やチェンマイ大学の学生による日本の歌と踊りの公演の他、領事館から日本留学に関する説明が行われ、結果発表を待った。

厳正な審査の結果、チェンマイ大学3年ガウィター・スパトライウォーラポンさんが優勝した。

「雨上がりの花みたいに」と題したスピーチで「人生には、晴れの日のような幸せな時もあれば、雨の日のような辛い時もある。花たちも咲くためには雨の日が必要なように、辛い時も勇気を出して頑張って成長していこう」と語った。

スパトライウォーラポンさんは、年間の授業料免除のほか往復の渡航費用や生活支援金などが支給され、今年の9月から1年間、本学で日本語科目を中心に学ぶ予定。

優勝したスパトライウォーラポンさん

卒業生によるボランティア活動報告会

可能性あふれる後輩たちへつなぐ

3月24日、在学中にボランティア活動を行った卒業間近の4年生3人を迎え、自らの経験や気づきについて発表する報告会が行われた。主催したボランティア・ビューローは、本学のボランティア支援窓口として各種情報の提供や支援活動を行っている。共催の「上智大学ボランティアぷらっとほーむ」は、ボランティア・ビューローと協働で活動する学生の有志団体だ。

報告会では、「飯館村交流ボランティア」「飯館村プロジェクト」「南三陸町×上智大学リモートプロジェクト」に参加した3人が、自ら行った活動内容について発表。発表者は声を揃えて、活動を充実させるには上智生の間はもちろん、中学生や地域の人々など共に活動を行う人との『対話』が大切だと話した。

発表後の座談会では、参加者からボランティアを始めるに至ったきっかけや活動後の変化などの質問が寄せられ、ボランティア活動を始めようという気持ちの高まりがみられた。

報告会を見守った前学生センター長補佐の大塚祐子外国語学部教授は、「コロナ禍で制約のあった中、自ら考え、他者のために行動してきた学生たちを誇りに思う。彼らの経験談を糧に、今後も後輩たちによってボランティア活動が続くことを願っている」と振り返った。

上智大学ボランティアぷらっとほーむが司会進行を務めた

第７回アフリカ Weeks 2023　5 月 15 日（月）～ 29 日（月）

【講演会】	5／15（月）	アフリカのスラムに学校を作る　～子どもたちの笑顔、命の輝き～
【セミナー】	5／20（土）	Youth Conference　アフリカ地域研究者と話そう
【講演会】	5／22（月）	天空の王国レソトを知っていますか？
【講演会】	5／23（火）	ルワンダで義足を作る　～再建に向けて～
【セミナー】	5／25（木）	上智大学アフリカ研究紹介
【学生企画】With Africa		
【ワークショップ】	5／26（金）	アフリカン・ワークショップ　～コーヒーから知るアフリカ～　高校生・大学生限定
【雑誌発行】（無料配布）		アフリカに関係する仕事に取り組むソフィアン（卒業生）インタビューなど

＊各イベントの詳細および参加申込みは、QRコードまたは下記URLからご確認ください。
https://www.sophia.ac.jp/jpn/global/program/africa-weeks.html

受賞・採択

学生

■第12回イオン液体討論会優秀ポスター賞（受賞日：11月25日）

佐藤雅也（理工学専攻応用化学領域博前2）

黒田留以（理工学専攻応用化学領域博前2）

■第12回ＣＳＪ化学フェスタ2022優秀ポスター発表賞（受賞日：11月30日）

大石果歩（理工学専攻化学領域博前2）

■ＲＩＳ2022全国大会ＭＮＰ賞（受賞日：12月4日）

川上清香（経経4）

齋藤大樹（経経4）

鈴木航海（経経4）

武田育琉（経経4）

■第34回丹波篠山映像祭準グランプリ（受賞日：2月5日）

濱本賢（経経4）

望月茜音（経経4）

■情報処理学会コンピュータと教育研究会学生奨励賞（受賞日：2月12日）

熊西叶乃（文新3）

松本知佳（理工学専攻情報学領域博前2）